

「男女共同参画から考える 家族のコミュニケーション力」

講師 岡野絹枝さん

男女共同参画の視点からみると、家族の中であつたわががちな、夫・妻・女・男という固定的な役割分業の考え方は、本当の意味でのコミュニケーションをとりにくくします。家族だからこそ性別や役割に縛られず、お互いを尊重した関係が必要であるという内容でした。人間関係の基本はプラス思考であり、家族でも言葉にしないと伝わらない想いがあります。「ありがとう」という感謝と「すみません」という謙虚な気持ちをお互いに声に出して言葉で伝え合ひましょう！講演の最後にはOK牧場と称したチャート式の自己分析をし、自分の心の癖を楽しく知ることが出来ました。こういう講演を聴いたときには少しだけ素直になり、家庭や職場でも円満に努めるのですが、この気持ちを持続させる秘訣も教えて頂きたいなあと思いました。



地域別研修会

金 宏実

高岡ブロック地域別研修会が2月15日に開催されました。開会の挨拶に続き、男女共同参画の推進という題で県から説明がありました。平成19年にはDV被害を受けた女性が22%おり、うち53%は誰にも相談していないそうです。100人いれば約11人です。男性で被害を受けたのは約9%ですが、8割が誰にも相談していないそうです。プライドが邪魔するのでしょうか、100人いれば7人がDVを一人で抱えています。高齢化、介護を考えると男性にとっても深刻な問題です。

射水、氷見、の活動報告は朗読劇を交えたわかりやすいものでした。特に射水市の劇は祖母の怪我に



よる家族の葛藤、
解決案の提示と身
近で役立つ内容で
した。

2009年度 ミニ地区懇談会開催スケジュール

五位山	赤丸	西五位	大滝	山王	福岡	中田	戸出西部	戸出東部	石堤	千鳥丘	東五位	牧野	西広谷	国吉	太田	古府	伏木	野村	二塚	下関	万葉	能町	成美	木津	南条	博労	西条	川原	横田	平米	定塚	校名
				11月中					3月6日(金)						同日開催						11月中		6月中	6月18日(金)	6月中							開催予定日

万葉朗唱会に参加しました!!

2008年10月3日～5日に開催された「高岡万葉まつり 万葉朗
唱の会」に有志6名で参加しました。出番は最終日のラスト前、
ゆるキャラの家持くんや利長くんの直前という最高？のシチュエ
ーションです。何としても「男女共同参画」をアピールしたい！
限られた時間の中で思いついたのがブラカード。全員が読み終え
た後に背中に隠しておいた文字を前面に出しアピールする作戦…
ところが、打ち合わせ不足のため歌詠
み後に背中を向けて戻り、ネタバレに
て失笑をかってしまう始末。秋の夜長
そ降る雨にも負けず、貴重な体験を
させていただきました。（大乗 行博）



編集後記

2008年度は各種行事への参加を通じて当会のPRに努め、推進員の結束も強まってきました。さらにはたくさんの協力を頂き、ワークライフバランスという大きなテーマにも取り組むことが出来ました。2009年度にもさまざまな企画にチャレンジしてまいります。次号、広報誌も乞うご期待!!

(瀧澤 健治)



利長くん

とも だち

ともだち共立

平等・開発・平和

平等・開発・平和

第6号 富山県男女共同参画推進員高岡連絡会

「カエル！ ジャパン」のススメ

富山県生活環境文化部男女参画・ボランティア課 課長 黒崎紫抄代



最近、ワーク・ライフ・バランスという言葉をよく耳にする。

ここ30年、夫婦共働き世帯は増加し、女性の就業に対する考え方も「継続就業」支持が多くなってきた。しかし、一方では、相変わらず長時間労働が当たり前の働き方はこうした時代変化に対応できていない。「仕事と育児、介護の責任が二者択一になっている」「仕事が忙しすぎて家族の団欒が困難」など問題を抱える人が増えている。私の回りでも「久しぶりに子どもが起きている時間に帰宅したら不思議な目で見られた」と笑えない話も聞く。確かに日本人は働き者かもしれないが、仕事だけの人生を望んでいる訳でもなく、すべての人は生活に豊かさを実感したいと切に願っているものと思う。このような現状を改善しようと、国は、仕事と生活の調和を推進し「しっかり働き、豊かに暮らせる社会」実現に向け、「カエル（現状を変える）！ ジャパン」キャンペーンを展開している。会社のいろいろなしながらみもあるが、まずは、自分が望む豊かな生活を描いてみて、できることからまずひとつ勇氣をもって「働き方」を変えてみよう。

との呼びかけだ。豊かな生活とは、家族との団欒、地域活動への参画、文化への誘い、自分の趣味など人それぞれであろうが、ある学者によるとワーク・ライフ・バランスは時間のバランスと思われがちだが、実際は心理的な満足度と安定性であるという。時間の配分ではなく要は中身、関わり方が影響するようだ。また、「仕事と生活の両方大事」と答える人は「どちらか一方が大事」と答える人に比べてストレスが少ないとのデータもあるそうだ。

高岡市は、今年開町400年を迎える伝統と文化の薫り高い都市である。また、元来、高岡市民(特に女性?)は元気で、男女共同参画をはじめ、地域づくり、子育て支援や教育など幅広い分野での勉強会や市民主体の企画も多い。

ひとつ「働き方」を変えてみよう!

豊かさのヒントはこんなところにあるのかも知れない。最近は厳しい経済情勢が続いているが、逆にこんな時こそ、自分の毎日を振り返って見て、何かひとつ現状を「変えて」みてはどうだろうか。

ひとつ「働き方」を変えてみよう！

カエル! ジャパン
Change! JPN 

高岡市は男女平等・共同参画都市宣言を制定

平成20年11月1日、記念式典が開催されました。

◎記念式典に出席して

高岡市・内閣府主催による「高岡市男女平等・共同参画宣言都市記念式典」がウィング・ウィング高岡4階ホールにおいて開催され、私たちの会からも二十数名が出席しました。

式典では、新成人代表の男女2人と共に、会場の市民が「高岡市男女平等・共同参画都市宣言」を読み上げたほか、「内閣府報告」や「男女平等EXPO高岡2008」表彰式、市内で男女平等・共同参画に取り組む団体の活動事例発表、上村千賀子氏（国立女性教育会館（ヌエック）客員研究員）による基調講演などが催されました。

私たち推進員も、地域における実践の担い手として来年度行うミニ地区懇談会などの活動を通し、「市男女平等推進プラン」に掲げる『認め合い 支えあい 共に輝く ひと と まち』を目指し、更に男女平等・共同参画の取り組みに積極的に参画していきたいという思いを新たにしました。皆様のご協力をお願いしたいと思います。

(山田 徹・男女平等EXPO高岡2008実行委員)



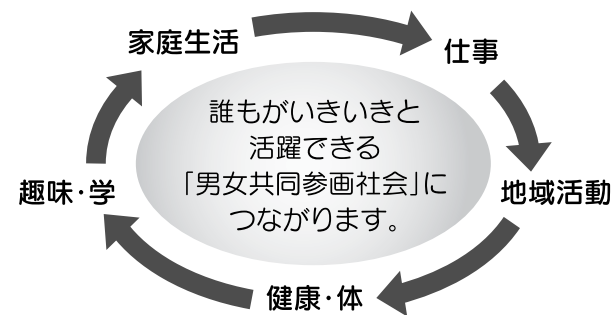
仕事と生活の調和の実現に向けて (ワークライフバランス)



2008年度の学習目的を「ワークライフバランス」(以下WLB)とし、サブテーマは「働くことは生きること」

- トーク&トーク
- 内閣府提供のDVD視聴
- 講演会

と、3回の研修会を行い学びを深めました。少しでも市民の皆さんにもお知らせできればと思い、特集号としました。



「WLBを知る」 第1弾

トーク&トーク 「市議さんと語ろう!ワークライフバランス」

高岡市議会議員の曾田さん、金森さん、そしてワーキングマザー代表として資生堂販売(株)に25年お勤めの金森鳴美さんをお招きし、それぞれの立場や経験を通して熱く語っていただきました。

○今日のご時勢では働く側の意識がなかなか伴わず、残業や土日出勤をする人も多いのでは？

○制度だけがあっても、実際に利用しやすい風潮・風土にしていなくては。男は仕事。家事・育児は女という考え方が背景にありジェネレーションギャップは否めない。現在は仕事も育児も家庭も、その役割と責任を男女が助け合い、果たしていく時代。

○WLBの取り組みによって働きやすい職場、子育てしやすい環境になれば、それが結果として少子化対策・男女共同参画社会への現実とつながっていく。

曾田:「子供のお風呂はまかせて!毎日入れましたよ!父親も直接子供に触れるような育児を!」

金森(男):「妻の入院を期に家事の分担に目覚めました。洗濯物だってちゃんと干しますよ。」

金森(女):「仕事をしながらの子育て。触れ合う時間が短くても、スキンシップをぎゅ〜っとしっかり!私はこれでうまくいきました。」



「WLBを知る」 第2弾

内閣府提供のDVDを視聴して…

働く人が、企業・行政・NPO法人等のバックアップの取り組みによって仕事のモチベーションが上がり効率化され、そしてゆとりある家庭生活へとサイクルが成り立っている頼もしい実例を見ることが出来ました。就業時間・通勤への配慮やワーキングマザーへの子育て支援など様々です。少しの後押しで実労働以外の時間を自分、家庭のために使える工夫です。今日の社会情勢の中、仕事に追われ、生活とのバランスを保つと言うことに「理想と現実のギャップ」を感じている人は少なくないと紹介されていました。真剣に働きしっかり休む!簡単そうでなかなか出来ませんが、まわりの人と協力し合い、時間の使い方を工夫することで心のバランスがとれ、それがゆとりある生活へ繋がっていく過程を再確認出来ました。(常木 豊史)

育児・介護休業制度、短時間勤務制度在宅勤務などさまざまな制度が企業に導入されています。このDVDはそんな職場環境で働く男性社員の現状と経営者側の取り組みが取り上げられ、社員が過ごす家族との時間やリフレッシュタイム、また自分を成長させるための時間など、仕事と生活の調和が保たれていることが映し出されています。企業側にしても社員一人ひとりのモチベーションアップにつながり、生産性も向上するメリットがあります。ワークライフバランスとは各個人が意識と、家族や同僚の協力、企業のバックアップが揃ってこそ成り立つのではないかと感じました。自分らしく輝いて生きていくためにもワークライフバランスの理解と浸透が大変重要だと感じました。(柴田 真由美)

「WLBを知る」 第3弾

働くことは生きること ~ある企業の取り組み~

研修会の締め括りとして、WLBを実践されている企業の方を招いて、講演をいただきました。

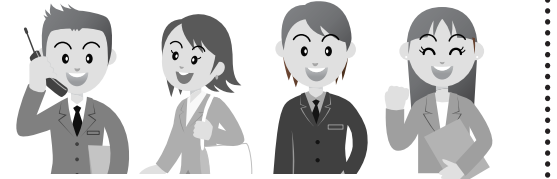


取り組みへのきっかけ 〈2007年〉

「企業は人なり」との社長発言をきっかけとして、まず初めにWLB、特に「仕事と子育ての両立」について、取り組みました。優秀な人材確保の観点からも、女性が安心して働き続けられる人事制度、職場環境の整備が急務でした。

具体的な取り組み

配偶者出産休暇制度…妻の出産時、夫が休暇を取得できる。
再雇用登録制度…結婚、出産等で一度退社しても、再就職できる。
短時間勤務制度…子供の送迎を考え、勤務時間を短縮できる。
男性の育児休業…WLB推進後数人の男性が取得。



さらなる取り組み 〈2008年〉

「人が元気でないと、企業も元気にならない」昨今の長時間労働による健康被害が明らかになり、早急に対策がなされました。男女関係のないWLB、「仕事と私生活の両立」への取り組み開始です。「週に一日はノー残業デー」「自分の誕生日は有休取得日」「管理職への意識啓発研修会」等の対策を実施しました。

そして今… 〈2009年〉

WLB推進の結果、様々な反響がありました。
「再雇用登録制度の案内をもらい、本当にうれしい。」(出産退社後子育て中の女性)
「僅かな時間だが貴重な体験ができて得るものは大きい。感謝しています。」(育児休業取得した夫に対して妻)

「WLBは生き方、意識を変える事。各々が豊かに幸せに生きること」と締めくくり、ご自身がWLBに取組んだ成果も語っていただき、楽しくて、有意義な講演でした。



県内初の民間基金がスタートしました!

DV被害者が自立の一歩を踏み出すための一時支援金を無利子で貸出します

DV(ドメスティック・バイオレンス)問題は社会認知もされ、徐々に支援の輪も広がっていますが、未だ被害の相談件数は増加しています。また、子どもへの影響も深刻です。パサパは、誰もが安心して暮らせる何事も暴力で解決しない社会を願って活動します。

賛同するみなさんの会費・寄付で運営されます。あなたのサポートをお願いいたします。

〈会費・寄付振込先〉

ゆうちょ銀行〇七九店(079)当座預金口座番号0057876
口座名 サポート基金パサパ
問合せ先:080-6358-0838

パサパって?
フランス語で、
「一歩一歩」という意味です。

悩んでいることは ありませんか ひとりで悩まないでご相談ください

DV(夫や恋人からの暴力)
家庭や職場のトラブルや悩み事など
高岡市男女平等推進センター相談室
TEL 0766-20-1811



相談時間 9:30~16:30 月・火・水・金・土
14:00~20:00 木

【電話相談】【面接相談】(予約が必要です。)
※休館日は、毎月第4月曜日・12月29日から翌年の1月3日まで。
(相談業務は毎週日曜日がお休みです。)

高岡市末広町1-7(ウイングウイング高岡6階) ●JR高岡駅前

平成19年度の
主なデータ

相談件数:1,877件(延件数)
主な主訴:①DV(42.3%) ②生き方(39.4%)
③夫婦の問題(11.5%)
年齢別:①30歳代(53.7%) ②40歳代(25.1%)

相談室より

相談室では一人ひとりの気持ちや考え方を尊重し、相談者自身が自分の力を発揮して問題解決に取り組んでいけるようなサポートを行っています。
電話相談や面接の中で相談員とともに問題を整理しながら、今後の見通しをつけていくための知識や情報も提供しています。